

百名山「利尻山」山行報告

【2026年度 百名山シリーズ②】 レベル ☆☆☆

日 程：2026年6月26日（金）～6月28日（日）

場 所：利尻山(北峰) (1,719m)

参加者：行方真由美、宮崎則子、水野千秋、間仁田隆一、塚越和子、平本美恵子、平本真二郎、朝井紀久子、SL 町田美春、CL 稲越洋一

天 候：雨

行 程：キャンプ場出発→北麓野営場登山口→5合目→7合目→8合目→長官山→利尻岳山小屋→利尻山山頂→山頂出発→利尻岳山小屋→5合目→北麓野営場→キャンプ場

【山行概要】

■6月26日（金）

快晴の利尻空港に一人で降り立ちました。稚内港から鴛泊（おしどまり）港へ向かう最終便フェリーでやって来る9名と合流するため、まずは路線バスでフェリーターミナルへ移動します。

到着したときは売店や食堂も閉まっていたので閑散としていましたが、船の到着時間が近づくと送迎の人や車が集まり始め、下船客と一緒に一瞬でごった返しました。無事に仲間と合流した後は、2台のレンタカーに分乗して島唯一のコンビニ「セイコーマート(セコマ)」へ夕食を調達する為に立ち寄ったのですが、新しく品揃えも豊富です。それまで持っていたセコマのイメージを覆すほど魅力的な店舗で、島に滞在中、何度も買い物に訪れることになりました。

宿泊先は、キャンプ場「ゆ〜に」にあるコテージ2棟です。まだ新しく設備も整ったきれいな建物で、5人ずつに分かれて泊まりました。それぞれ購入したお弁当を食べ終えた後、道路を挟んで反対側にある「利尻富士温泉」へ徒歩で向かい、入浴を済ませました。



■6月27日（土）

出発は3時の予定でしたが、激しい雨のため6時出発に変更。北麓野営場管理棟の軒下で雨具などの準備を整え、10人で出発しました。程なくして「名水百選」にも選ばれている甘露泉水に立ち寄りしましたが、大雨の影響で水がぬるくなっており、飲むのは断念しました。



雨の中、花が咲き誇る樹林帯を抜け、第一見晴台、第二見晴台、長官山へと登り進めていきます。しかし、雨と風が強く、休憩をとるには厳しいコンディションだったため、水分補給をする程度で先を急ぎま

した。利尻岳山小屋の手前まで来た時のことです。雲が風に流され、一瞬、山頂が姿を現しました。それまでの疲労が一気に吹き飛ばすような歓喜の声が上がります。山小屋でしっかりと栄養を補給し、体力を回復させました。

9合目の杭には「ここからが正念場」の文字。崩落しかけた登山道を一步一步登り、ついに山頂の利尻山神社奥社に到着しました。すると、それまでの悪天候が嘘のように視界が開け、礼文島や北海道の本土海岸線までも見渡すことができたのです。最高のご褒美を堪能し、記念撮影を済ませて下山を開始しました。



下山を始めて間もなく、コルゲート管を土嚢代わりに積み上げた急登を登ってくる親子3人とすれ違いました。聞けば、お子さんはまだ5歳で、ここまで自力で登って来たとのこと。その健脚ぶりに驚いているのも束の間、山頂から折り返してきたその男の子に、下山も一瞬にして追い抜かれ、一同さらに驚かされました。その後は山小屋での休憩も短めに済ませ、一気に北麓野営場まで下りました。



■6月28日（日）

登山予備日としていた最終日は島内観光を満喫しました。ペシ岬展望台、鴛泊灯台、姫沼、オタトマリ沼、杓形（くつがた）港フェリーターミナル、杓形岬公園を巡り、食事処「梵天」では念願のウニ丼を堪能。その後、利尻空港や夕陽ヶ丘展望台、最後に鴛泊フェリーターミナルに立ち寄ってレンタカーを返却しました。ここでフェリー組と飛行機組にそれぞれ分かれ、充実した山行の思い出を胸に帰路につきました。（記：山行委員・間仁田隆一）

